

第11回 生成AIを活用した データ生成の実践

2026/07/08

1

今回やること

1. Copilotの構成(復習)
2. 生成AIの実践

2

1. Copilotの構成(復習)
2. 生成AIの実践

1. Copilotの構成(復習)

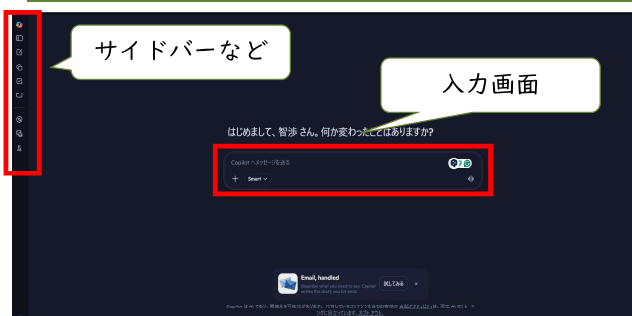
3

Copilotとは

- Microsoft社が提供している生成AIツール
 - ✓ 文章生成や画像の生成が可能。
 - ✓ Microsoft365のほかのサービスとも提携。
 - WordやPowerPointなど
- Open AI社が提供している生成モデル「GPT」をもとに開発。

4

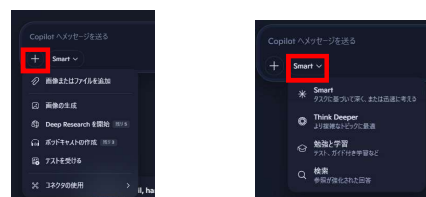
Copilotの構成



5

入力画面

- 文章だけでなく、画像やファイルも送ることができる。
- 生成モデルを選ぶこともできる。
 - ✓ デフォルトはSmart



6

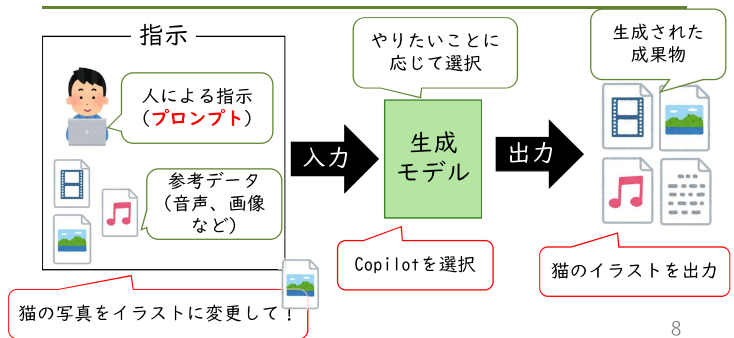
サイドバー

- 新しいチャットなどを作ることができる。
✓話題ややりたいことによって、チャットを変えたりする。



7

生成AIを利用する流れ



8

1. Copilotの構成(復習)
2. 生成AIの実践

2. 生成AIの実践

9

演習I：生成AIの実践

演習

1. UNIPAからxxxx_11.docxをダウンロードする。
✓ xxxx部分を学籍番号に変更すること。
2. Copilotに接続する。
3. Smartモードであることを確認する。
4. wordファイルの演習Iに従い、生成AIの実践を行う。
✓上手いかないことがあった場合、【メモ】と書かれた下にメモすること。

10

プロンプトエンジニアリングの基本

- より良い回答が得られるように、プロンプト(入力)を構造化する手法。
 - ✓**タスク**：AIにやってほしいこと。
➢例) 要約してほしい。
 - ✓**背景**：前提条件や目的などの補足情報
➢例) 大学の講義で発表する。
 - ✓**入力**：質問内容そのもの。
➢例) 要約してほしい内容を書く。
 - ✓**出力形式**：回答のフォーマットを指定。
➢例) 箇条書きで出力して。

11

プロンプトエンジニアリングの工夫

- 役割を与える。(専門家のように解説して)
- 対象を指定する。(小学生に説明するような文章で)
- 考え方を指定する。(問題を段階的に検討して)
- プロンプトが長くなる場合は、箇条書きにする。
- 画像生成では、具体的な指示を書く必要がある。
 - ✓色の制限とか
 - ✓自分で画像のイメージをなんとなく書いて、AIに渡すのも1つの方法。

12

プロンプトエンジニアリングの例

[タスク]

あなたは情報工学の専門家です。高校生に向けて、情報リテラシーの説明をしてください。

[背景]

高校生を対象としたオープンキャンパスのパンフレットでの授業紹介に使用します。

[入力]

情報リテラシーや授業について説明してください。

[出力]

400字以内の文章として出力して下さい。

13

演習2：プロンプトエンジニアリング 演習

1. Copilotに接続する。
2. Smartモードであることを確認する。
3. wordファイルの演習2に従い、生成AIの実践を行う。
 - ✓プロンプトエンジニアリングを意識すること。
 - ✓入力したプロンプトと、出力を貼り付けること。

14

ハルシネーション(1) (復習)

- 生成AIが事実と異なる情報を、最もらしく生成してしまう現象。
- 専門家なら気づくことができるが、AIから何かを学ぶようとしている場合には、気づくことができない。
- ハルシネーションの例 (中世フランス史)

1337年に勃発した百年戦争は、フランス王位継承問題やフランドル地方の利権を巡る英仏間の争いでした。長らく戦局が不利だったフランスですが、1429年にジャンヌ・ダルクが登場し、オルレアン解放に貢献してシャルル7世の戴冠を支援します。その後、ジャンヌはイギリス側との直接交渉に臨んで1430年に「パリ休戦条約」を締結。両国の和解を実現させた彼女は故郷ドンレミ村へ戻り、平穏な余生を送りました。

15

ハルシネーション(2) (復習)



- AIバイアスという問題も存在する。
- AIは何かもととなるデータから学習するが、そのもととなるデータに偏見が含まれている場合もある。
 - ✓看護師=女性、エンジニア=男性など
 - 上記のイラストは、Geminiに看護師のイラストを描かせた例。
- 書類選考をAIに任せただけの場合、人種差別を起こしてしまう例もある。
- 必ずAIが生成したものについては、**正しさの裏付けやバイアスが含まれていないことの確認**が必要である。

16

ハルシネーションの例



17

ハルシネーションの注意点

- 都道府県を五十音順に並べる例については、間違っていることがすぐに分かる。
- すぐに答えが分からないものや、そもそも答えが存在しないような問題について、生成AIを使用する際には十分に注意する。
 - ✓必ず答えが正しいことを確認する。
 - ✓1つの意見として受け取る。

18

演習3：ハルシネーションを体験する 演習

1. Copilotに接続する。
2. Smartモードであることを確認する。
3. wordファイルの演習3に従い、自分の好きなこと、趣味などについてCopilotに解説させ、嘘や間違いを発見してみる。
4. 上記がうまくいかない場合には、イラストや文章を作成させて、AIの偏見やバイアスを見つけてみる。

19

AIを使う人間の倫理観（復習）

- 著作権侵害の可能性
 - ✓ 基本的には、生成AIで作成した制作物については著作権はない。
 - ✓ ただし、詳細な指示を与えて、何度も修正し、人間が創作的に関与した場合は、作成者に著作権がある可能性がある。
 - ✓ 既存の著作物と似ているものができ、それを使用した場合、著作権侵害となる可能性もある。
 - Copilotはその点が厳しいが、Geminiなどは緩い傾向がある。
- 著作権を頭の片隅に置き、AIを利用する必要がある。20

著作権に関する注意点

- 生成AIを利用した際には、そのことを明記・引用する。
 - ✓ 画像を生成した際など。
 - ✓ 極力、文章などはそのまま使わない。
- 利用者としての責任を持つ。
 - ✓ 万が一、他人の権利を侵害した場合、生成AIや生成AIを提供している会社は責任を持ってない。
 - ✓ 最終的には自分の責任になることを理解すること。

21

演習4：生成AIを使用する際の注意点 演習

1. Copilotに接続する。
2. Smartモードであることを確認する。
3. wordファイルの演習4に従い、生成AIを使用する際の注意点や法律などを考えて、まとめてみる。
 - ✓ 生成AIの出力を、そのまま使用してもよいが、情報の正しさをきちんと確認すること。

22

おわりに

- UNIPAの情報リテラシ I の第11回の課題として以下のファイルを提出してください。
 - ✓ 「xxxx(学籍番号)_11.docx」
 - ✓ 期限は2026/07/14(火) **16:00**まで。
- PCをシャットダウンしましょう。

23